

令和3年2月22日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」

147号



笑顔運ぶ新品種「にこにこベリー」

☆「にこにこベリー」スイーツフェア開催☆

県内の飲食店32店舗で宮城県育成いちご新品種「にこにこベリー」を活用したスイーツフェアが**令和3年3月4日(木)から3月21日(日)まで**開催され、栗原市からはパレット築館本店と菟久乃屋が参加します！

パレット築館本店

栗原市築館伊豆4-7-15

Tel.0228-22-8010

☎ 9:00～19:00

☎ 不定休



きくのや

菟久乃家

栗原市築館薬師3-7-26

Tel.0228-22-2815

☎ 8:00～19:00

☎ 水曜



宮城県が育成したいちごの新品種「にこにこベリー」は、「もういっこ」と人気品種「とちおとめ」の交配により誕生したいちごで、整った形と赤い果肉により、カットしたときの断面が美しいのが特徴です。おいしくて収量が多く、日持ちが良いことから「食べる人も売る人も作る人も、みんなが笑顔になるように」という願いを込めて名付けられました。栗原市内では現在2戸の農家が栽培しており、今後も栽培者の増加が期待されています。



# PROJECT プロジェクト課題紹介

## 中山間地域における小果樹類の生産性向上及び新商品開発

平成30年度から3か年、花山地区で栽培されている小果樹「ふさすぐり」を通して中山間地域を活性化する取組を支援してきました。

生産振興では、せん定講習会や巡回指導を通して、適期作業や高齢者でも作業しやすい省力化樹形のせん定方法等の技術支援により、新規栽培者の掘り起こしや生産再開を進めました。

ふさすぐりは、栽培に手間がかからず、鳥獣被害も少ないため、花山に向く作物ですが、収穫期間が約2週間と短いこと、



せん定講習会

果実が直径1cm程度と小さいため、収穫に手間がかかることなど収穫に関する課題が生産者減少の要因になっていました。そこで、収穫労力の補完と交流人口の増加を目的として、援農バスツアー、援農ボランティア及び洋菓子店スタッフ等による収穫応援等を試行し、継続可能な援農体制を検討してきました。今後は、地元主体で継続できる援農体制の定着に向け支援していきます。また、多くの消費者に花山ルビィふさすぐりの魅力を知ってもらうため、令和元年から令和2年の2か年「花山ルビィ

ふさすぐりフェア」を開催しました。洋菓子店等の協力により、参加店は令和元年の5店舗から14店舗へ、販売期間も3日間から21日間に増やし開催しました。フェアでは、ふさすぐりの色、酸味を生かしたケーキ、焼き菓子、アイス、ジェラート等の20商品が提供されました。フェアを通して、菓材として多様な活用ができること、また、ふさすぐり商品が消費者に受け入れられることが確認でき、生産者の生産意欲向上に繋がっています。



今後は、生産量を増やし、生産者及び実需者のつながりを深めながらさらに活用を広げ、花山の魅力の一つとして「花山ルビィふさすぐり」が定着するよう取り組んでいきます。



特産品開発研修

## 農業・農村女性活躍表彰で栗原市生活研究グループ連絡協議会が最優秀賞を受賞しました

令和2年度宮城県農業農村女性活躍表彰において、栗原市生活研究グループ連絡協議会が女性地域社会参画部門（組織）の最優秀賞を受賞しました。本表彰は、地域の特色を生かした農村生活の充実や男女共同参画につながる活動をしている農村女性を表彰するものです。

本協議会は昭和42年の設立以来、農産加工品の製造・販売などをはじめ、農村女性のネットワークづくりと、女性リーダー育成に取り組んできました。地区ごとに特徴的な活動を継続して行ってきたことや、農

村ならではの伝統文化や生活技術を学び伝える「ルーラルガイド（田舎暮らしの案内人）講習会」の取組が高く評価されました。さらなる御活躍を期待しています。



左:菅原副市長に受賞報告する協議会会長 氏家豊美氏

農作業事故をなくしましょう！

## 農地整備を契機に設立した農事組合法人の営農モデル構築

農地整備事業を契機に令和2年2月に設立登記された若柳・八木地区の農事組合法人やつきファームを対象に、地域の担い手として期待される集落営農組織の法人化モデルとなるよう、農地集積や法人の運営、基幹作物としての大豆栽培技術の定着・向上等について支援しています。

目標とする農地中間管理事業を活用した農地集積計画では、構成員の理解の醸成を支援、ほぼ全員の同意を得ての事業活用となりました。基幹作物と位置づける大豆は、天候が不順で困難な条件でしたが、各作業

の必要性を理解した管理が行われ、順調な生育で目標収量も達成できました。今後は水稻・大豆・飼料用米ブロックローテーションの取組を検討しています。

令和3年度も、設立間もない法人の諸課題解決を通じ、営農モデルとなるように支援していきます。



基幹作物の大豆栽培

## スマート農業技術の活用による土地利用型作物の生産性向上

農事組合法人iファームを対象に、スマート農業技術の活用やGAP実践などを通じて土地利用型作物の作業効率化や収量向上を支援しています。①水稻幼穂形成期にリモートセンシングを実施し、NDVI値に基づきドローンで追肥しました。追肥ほ場は無追肥対比で、移植稲で7%、直播稲で19%増収しました。また、農薬散布ドローンの自主運用が定着しました。②業務用直播水稻は一発型肥料の緩効性窒素の溶出期間を延長し、前年比15~19%増収しました。大豆は疎植栽培等により、収量165kg/10a(前年比56%増)を確保できました。キャベツは、根こぶ病発病リスク

に基づいた防除計画を実行し、ほぼ発病が確認されませんでした。③JGAP対応のICTほ場管理ツールの運用により、各種台帳の整備、GPS付農機、PC及びスマホにより作業記録を行い、作業能率等の分析に活用できるようになりました。

令和3年度は、土地利用型作物の生産性向上が確かなものになるよう、支援を継続していきます。



ドローンによる水稻の追肥(穂肥)

## きゅうり生産の見える化による栽培技術のレベルアップと産地生産力の強化

昭和45年に指定産地に指定され、地域の園芸生産を牽引してきた栗原市のきゅうり生産は、近年高齢化等により生産者が減少し、産地の生産力低下が問題となっています。

本課題では、産地の維持強化に向け若い世代を中心に技術向上を支援してきました。

対象者ごとにSPDCAによる生産技術の改善を図るため、個別の面談により今作の作付計画と前作の課題(C)に対する改善策(A)を確認することで、計画(P)や改善を意識した栽培への取組(D)がみられました。また、2回の相互視察研修は、自身の作業・管理を見直す気づき(S)を得て改善実践する機会にもなりました。

重点指導対象に環境測定装置を設置し、

ハウス内の環境モニタリングデータを示したところ、環境制御に関する意識の高まりが見られ、令和3年度作からは環境測定機器を導入する生産者もあり、環境モニタリングデータを活用し、ハウス管理改善に生かすこととなりました。

令和3年度も引き続き、支援対象者の生産技術と収量の向上を図っていきます。



相互視察研修会

農薬は登録内容をよく見て使いましょう！



## 次年度の園芸振興に向けて

食を取り巻く環境の変化や国の米政策の転換等により、園芸作物等の高収益作物導入の取組が進められる中、宮城県では令和3年度から7年度までの園芸特産振興施策を展開する指針とするため、「先進的園芸経営体と共に切り拓く新しいみやぎの園芸産地～みやぎの園芸倍増に向けて～」をスローガンとした新たな「園芸特産振興プラン」を策定しており、これに基づき、今年度、当地域の「栗原圏域産地戦略プラン」（以下、産地戦略プラン）も見直しました。

新しい産地戦略プランには、「1.先進技術の導入による施設園芸の競争力強化」「2.水田等における露地園芸の振興」「3.次代を担う先進的園芸経営体の育成」「4.消費者・実需者ニーズをとらえた販売戦略の展開」という4つの柱があり、1つ目の柱の施設園芸

については、環境制御技術や空きハウスの活用により全体の出荷量を増やすことを、2つ目の露地園芸については、農地整備事業と連携して、ソラマメやカボチャ等の高収益作物への転換を進めることや、機械化体系の導入によって作付拡大を図ることを目標としています。また、重点振興品目のズッキーニやシャインマスカットの生産拡大、消費者・実需者に向けた産地情報の発信、直売所やインショップへの出荷拡大についても、関係機関が一体となって取り組むことが盛り込まれています。

当地域は、農業産出額231億円のうち米と畜産で91%を占め、園芸は8%と依然として低い状況ですが、伸びしろがある分野でもあります。ぜひ今年度は、園芸作物にチャレンジしてみましょう。

### 令和2年度宮城県農林産物品評会・花き品評会で栗原市産品が多数受賞！

令和2年10月22日（木）、23日（金）に県庁にて開催され、栗原市から農産物34点、花き12点が出品されました。

審査の結果、片倉栄治氏が見事宮城県知

#### 令和2年度宮城県農林産物品評会・花き品評会受賞結果一覧(敬称略)

|         | 部門           | 受賞内容           | 受賞品目       | 受賞者名  |
|---------|--------------|----------------|------------|-------|
| 農林産物品評会 | 野菜(葉茎菜類)     | 宮城県知事賞1等・生産局長賞 | ねぎ         | 片倉 栄治 |
|         | 水稻(うるち玄米)    | 宮城県知事賞3等       | うるち玄米(つや姫) | 三浦 喜博 |
| 花き品評会   | 花き(花壇用苗の類)   | 金賞・宮城県知事賞      | パンジー       | 高橋 敦司 |
|         | 花き(切り花・枝もの類) | 銀賞             | スプレーぎく     | 白鳥 幸彦 |
|         | 花き(花壇用苗の類)   | 銀賞             | ピオラ        | 岩淵 徳夫 |

事賞1等(生産局長賞)、高橋敦司氏が金賞(宮城県知事賞)、このほかにも3名の方々が受賞され、栗原市産品の品質の高さが評価されました。

#### 受賞された皆様、おめでとうございます。



### みやぎ園芸振興大賞 大賞受賞！

令和2年度みやぎ園芸振興大賞において、「有限会社 サンアグリしわひめ」が大賞を受賞し、表彰の授与が行われました。(有)サンアグリしわひめは、平成13年ハイテクシステムによる栽培面積2万㎡の養液栽培トマト生産を開始し、越冬栽培により年間500t前後のトマトを県内中心に出荷しています。設立当初から味と品質にこだわったトマト生産をしており、「サンひめっこ」トマトとして、市場や消費者からの評価も高く、県農林産物品評会等でも幾度となく賞を受賞しています。そのほか、

### ～有限会社 サンアグリしわひめ～

地下水熱源ヒートポンプの導入や温湯配管暖房とのハイブリッド暖房を行うなど、ハウス内温度環境の改善及び消費エネルギーの削減を実現し、園芸生産の牽引役として今後の活躍が期待されます。



中央:代表取締役の三浦和栄氏

